

五歳児の記録⑧



二学期

磯部景子
堀合文子
津守真子

九月十六日 水曜日 くもり 小雨

子どもたちの朝のようす

運動会の遊戯の練習

九時

保育室

絵をかいている

庭

砂場で遊ぶ

おいかけっこをする(のち、子どもの家に行く)

庭を歩いている(のち、砂場に行く)

たいこ橋のところで遊ぶ

つたのくきをあつめる

車をおす

子どもの家

本を読んだり、ろうやごっこをする

九時三十分

保育室

絵をかく

床上積木で遊ぶ

本を読む

庭

砂場で遊ぶ

(はじめ五名と二名、別々に遊んでいたがのち全体につながる)

聖火リレーをする

鉄棒で遊ぶ

すべり台で遊ぶ(他の組の子とも遊んでいる)

子どもの家

女児三名

男児三名

男児二名

男児二名

男児一名、女児四名

女児一名

男児一名、女児一名

男児四名

男児二名、女児三名

男児三名

男児一名、女児一名

男児七名

女児二名

男児二名、女児三名

女児一名

本を読む

女児二名

遊戯室

大型箱積木で家をつくる

女児三名

九時四十五分

保育室

絵をかく（砂場で遊んでいた子どもが加わる）

男児七名、女児五名

庭

砂場で遊ぶ

男児一名

聖火リレー

男児二名、女児三名

（あちこちに走っていつては立ってむらがつてはなしている）
ばらのとげをあつめる

女児四名

遊戯室

大型箱積木で家をつくる

女児三名

十時三十五分～十一時三十分

片づけて、運動会の遊戯の練習

「きゅうぴいの歌」と「動物の行進曲」の遊戯をレコードに合わせてする。

九時十五分～九時三十分

保育室では女児⑩、⑪、⑫の三名が絵をかいている。

先生は保育室で遊戯ができるように、机を部屋のすみの方によせている。

◎が朝顔の種子を拾って先生のところに持ってくる。
先生は◎から朝顔の種子をうけとりながら、

「これ、朝顔の種子ね」という。

先生は朝顔の種子を器に入れる。

絵をかいていた子どもたちは「朝顔の種子ね」という先生の声を聞いて、先生のところにくる。

子どもたちは朝顔の種子を見ながら何か話している。

先生は子どもたちが使っている机を残して、他の机を部屋のすみによせていく。

先生は机の上においてあるかえるの入っている器を見ながら、

先生「かえるがちゃんと岩の上ののっているわ」という。

絵をかいていた子どもたちは、また先生のことを聞いてかえるのところにきて、かえるをみながら何か話している。

◎が庭からかけてきて、保育室においてあった聖火のトーチを持って、すぐ、また庭へ走っていく。

①が庭からかけてくる。庭から保育室につづくドアのところに◎が立っている。

①「Ｒちゃん、遊ぼう」と①が◎をきそう。

◎はにやっと笑って、ゆっくりと靴をはきかえて、①のあとに歩いていく。

◎がまた走って保育室に入ってくる。

◎「とれちゃった」といって、聖火のトーチの火の部分がとれてしまったので、先生のところに持ってくる。

先生は◎からトーチをうけとって、修理しはじめる。

㊤「また、ぬれちゃった」といって、洋服がぬれたことを先生に話す。

㊦は体格がよくて、活動量も大きい。汗でぐっしょりぬれて
いることが多い。

先生「きかえるの、あるわよ」という。

㊧は洋服はきかえないで先生のそばにいて、最近経験した葬式の話をしている。

㊨「おはかまいりにいったの。そして、もやしたの。そして蜂がきてね」と話す。

先生は㊨の話を聞きながら、トーチの修理をする。

㊩が発熱のため、幼稚園をやすむという連絡がある。

先生はそれを聞いて、

先生「あら、㊩ちゃん、どうしたのかしらね」と㊫にいう。

㊫はだまって、先生が修理しているトーチに見入っている。

トーチができあがると、㊬はさっさとトーチをかかげて、

㊭「いってきます。せんせい、見にきてね」と庭にかけていく。

㊮が㊮をさがしている。みあたらないので先生にたずねる。

㊮「㊮ちゃんたちは？」

先生「㊮ちゃんは、さっきからね」といいながら、保育室から庭に出て㊮といっしょに歩きはじめる。

先生「あ、あそこいらしたわ」とわらっていう。

㊮は㊮をみつめて走っていく。

保育室では男児三名が床上積木で何かづくりはじめる。

㊯がつたのくきを持って、先生のところにくる。

㊯「ちょっと、せんせい」といって、くきを先生にわたす。

先生は㊯といっしょに桜の木の下ベンチのところにいき、ベンチに腰をおろす。

㊯はつたのくきで何かづくりはじめる。

先生はくきを持って㊯とはなしている。

しばらくして、㊰は人形とかたつむりをつくる。つくりおわると、
「かたつむり」といって先生にわたす。

先生はうけとりながら、

先生「おもしろいものができたわね」という。

㊰は走って鉄棒のところに行く。鉄棒のところでは、㊱が鉄棒をしている。

㊰は㊱といっしょに鉄棒で遊ぶ。

㊲がかいたり、つくったりすることについて、

㊲は他の子どもに受け入れられないことがしばしばある。㊲は他の子どもと同じようなことをあまりしない。

(他の子どもの活動が㊲の活動を刺激することが少ない。)

㊲は絵を時々しかかかない。かく時には川なら川だけ、山なら山だけを大きくかく。

㊲は時おり、独創的なものをつくることがある。

九時三十分～九時四十五分

保育室

男児・U、S、女兒・⑩、⑪、⑫が絵をかくている。

女兒はさきほどみたかえるのことを話しながら、かえる、おたまじやくし、きんぎょ、すべり台、ぶらんこなどをかくている。

別のコーナーではC、⑬が本を読んでいる。

K、B、Rが床上積木で遊んでいる。

庭

砂場でA、D、Hが遊んでいる。

EとTが砂場で遊びはじめる。

はじめのうちは別々に遊んでいるが、全体につながって、五人がいっしょに遊びはじめる。

Dが砂遊びをやめて聖火リレーに加わる。

D、M、⑭、⑮、⑯が聖火リレーをする。

鉄棒のところで①と②が遊んでいる。

すべり台のところで⑥がとなりの組の子とも遊んでいる。

子どもの家

⑩と⑪が本を読んでいる。

遊戯室

⑭、⑮、⑯が箱積木で家をつくりはじめる。

九時四十五分～十時

砂場で遊んでいた子どもたちがどやどやと保育室に入ってきて、絵をかきはじめる。砂場はひとりになる。

⑩と⑪がばらのとげを集めている。

鉄棒をしていた①と②が保育室に紙袋をとりにいく。

雨粒がポツポツと降りはじめる。

庭から④が走ってきて、

「堀合先生、雨がふってきた」という。

③「そうだと思っていたわ」という。

①は庭に出て手をかざして、雨が降っているかどうかたしかめる。

③も庭に出てくる。

③「上をむいてればわかるわ」という。

①と③は紙袋を持って、⑩と⑪のところについて、ばらのとげをあつめはじめる。

④たちはジャングルジムのところでトーチを持ったまま、立ちどまってわいわいといっている。

まもなくみんなで子どもの家のところまで走っていき、そこでむらがつてまたわいわいといっている。

十時～十時三十五分

先生は砂場の子どもたちを見ている。

④は汗で、ぐっしょりぬれている。

④「洋服をきかえてくるわ」といって保育室に走っていく。

先生は保育室で子どもたちが絵をかくているのを見ながら、子どもたちと話している。

㊦は洋服を着かえる。こんどはボタンを持って、みんなのところに走っていく。

㊧「ふたりずつで走りましょうよ」と皆に提案する。

ばらのとげをあつめていた㊨、㊩、㊪、㊫が㊦たちに加わる。

㊬たちは結局、組に分れないで、みんなで庭中をぐるぐるのかけまわる。

朝から絵をかいていた㊭、㊮、㊯は絵をかくのをやめて、三人でたいこ橋にいく。

絵をかいていた㊰が三人のあとについてたいこ橋にいく。

㊱が砂遊びをはじめ。

㊲たちは大勢いっしょになって、庭から山へとぐるぐる走る。

㊳たちは山にいつて草をつみはじめ。

今日は㊴や㊵もともだちといっしょに遊んでいて、クラス中の子どもがそれぞれだれかと遊んでいる。ひとりで遊んでいる人はいない。

友だちといっしょに遊ぶことについて（堀合先生の話）

子どもたちが集団生活にまだ慣れていない四歳のクラスのときは、ひとりでぼつんとしている人がいないようにおとなの手が必要である。こういう時期に手をぬいて、ゆきとどいていないと、卒園する時になっても友だちと遊べない子どもがでてくる。

しかし、集団生活を一年間または二年間経てきた五歳のクラ

スになったときに、友だちと遊べない子どもがいた場合は、おとなは子どもの接し方によほど気をつけなくてはいけない。子どもにせつかく友だちと遊べる芽がのびてきはじめてときに、その子どもがのびはじめた方向を先生がみとめないで、ただ子どものいいなりにながされて接すると、友だちのできる時期がおくれてしまう。子どもが友だちと遊ぶことにおいて、その子どもは今、どういう段階にいるのか、ひとりひとりの子どもについて先生は、子どもの生活をとおして、みつめていくことが大切だ。

十時三十五分

机の上におしながができるように紙がおいてある。

先生は保育室にいる子どもや、砂場の子どもに

先生「そろ、そろ、お片づけしましょうね。またつづきをしましょう」という。

先生はピアノのまわりにこしかけを並べはじめ。

㊴たちが保育室に入ってくる。

㊵「ふたつばがあったわよ。よつば、じゅうば」と、ふしをつけていう。

先生は㊶の声を聞いて、

先生「紙にはさんで帳面にはさんでおいたら」という。

子どもたちは草を紙にはさんで、画帳にはさむ。

紙にはさんで画帳に入れておくとおし花ができるということを理

解していない子どももいる。

まわりでどんどん画帳に草をはさんでいく子どもを見て、とまどって先生にたずねる。

「紙にはさんで帳面に入れておくの？」

先生は子どもに応じる。

㊦は草を次々と画帳にはさんでいく。

㊦「せんせい、ひとつのがあった」といっておどろいてはっぱを見ている。

先生は㊦が持っている草を見て、

先生「じゃ、ひとつばだわ」とわらっている。

㊦も先生を見てわらう。

㊦が机の上につたのくきでつくった人形とかめをみつける。

㊦「これ、だれがつくったの？」とたずねる。

㊦が㊦のところにきて、得意になって説明する。

朝、㊦がつたのくきで人形とかたつむりをつくった。先生はそれを机の上にかざっておいた。

先生は子どもの作品を大切に扱う。

先生は子どものほんのささいな行動も尊重する。

そして、先生がそうするだけでなく、先生は積極的の機会をとらえて、子どもが他の子どものしたことがらや、他の子どもの行動に気づくように心をくばる。

先生は子どもたちが、お互いに認めあうことができるような機会を積極的につくっている。

保育室内がだいたい片づく。

先生「片づけがすんだ方はお手あらいにいっていらっしゃい。そして、あっちの方からおすわりなさい」という。

（あとからきた人が困らないように、おくの方から座りなさい）の意。

半数くらいの子どもがお手洗いにいく。

保育室に残った子どもたちはおすわりはじめる。

黒板に、朝から「自動車運転の歌」がかいてある。

子どもたちは黒板にかいてある歌詞を声を出して読みはじめる。

だんだんと、子どもたちの声がそろってくる。

じどうしゃうんてん、ドライブだ

みぎてをだして、みぎまわり

スピードゆるめて、きゅうかあぶ

先生はレコードをかける準備をする。

先生「今日はすっかりおぼえていただかないと間に合わないわ。大きい組の方は小さい組の方におしえてあげなくちゃ」という。

きい組の方は小さい組の方におしえてあげなくちゃ」という。

先生は「きゅうぴいの歌」のレコードをかける。㊦とふたりでくんで「きゅうぴいの歌」の一番と二番をみんなの前でしてみる。

子どもたちは先生と㊦がするのをみている。先生は遊戯をしながら

ら、動作について、こまごまと子どもたちに話す。

次に、子どもたちはふたりずつくんで三組、四組ずつ前に出てする。

はじめの三組の子どもたちが終わる。

先生「㊤ちゃんたちね、手をいつもバツとしておかなきゃね。にら

めっこするときは、きゅうぴいさん、いばっているのよ。㊤ち

ゃんたちも、㊤ちゃんたちも、前に出るときは、ゆっくりね」

といって、先生は動作について、こまごまと注意をする。

はじめの三組の子どもたちは席にもどり、次の四組の子どもたちが出てきて遊戯をする。

先生「はい、新しいきゅうぴいさんが出てきましたよ」といって、レコードをかける。

子どもたちはレコードに合わせてする。

先生「そう、Yちゃん、かえるときも手をこうしてね」という。

Eがさわぎはじめる。先生はEの席をかえる。

先生「Eちゃん、よく見ててね」

先生は子どもたちのそばでしながら、子どもたちがするのを見る。

先生「『わらったら、だめよ』はこういうふうにまげるとおもしろい

わね」といって、腕をビクッとまげる。

曲が終わる。

先生「そう、そう、じょうずですね。あら、じょうずになったわね」

子どもたちは席にもどる。

先生「まだしないきゅうぴいさん」という。

まだ、していない子どもたちが前に出てくる。

子どもたちは二番の遊戯を終わる。

先生は見ていて、

先生「あら、じょうずだわ、にらめっこのおてて、じょうず

だったわね」という。

次に女兒だけをする。

先生「男の方、よく歌ってあげて下さいね。『笑ったらだめよ』と

いうとき、腰をまげるといいわね。こんなになつてさがつた

ら、おじいさんみたいでしょ？ だから、こうやったらいいで

しょ？」といって、動作をする。

次に男児が『きゅうぴいの歌』の遊戯をして、『動物の行進曲』にうつる。

十一時十分

「こんどは『動物さんの行進』をしましょうね」といって先生

は『動物の行進曲』のレコードをかける。

先生「今日は、まねっこばかりですよ」といって、子どもたちを三

つのグループに分ける。

先生は子どもたちの先頭に立つ。

小鳥の曲の部分になる。

先生「みんな、かわいい、小鳥さんね」といって先生は小鳥になっ

て歩く。

先生の動作を見ていて、

「堀合先生がお母さん」とだれかがいう。

子どもたちも小鳥になって歩く。

曲想がかわるごとに

先生「今度はちようちよさんね」

「まだ歩くのよ、バカバカ」

「みんな、じょうずですね」

「こんどは熊さん、のーし、のーし」

「こんどはあひるさん、およぎますよ」

「こんどは歩きますよ、足を持って歩いて下さい」

「こんどはリスさん、チョロ、チョロ、チョロ」と、先生は曲に合わせて、動物の動作を擬音で表現しながら、子どもたちにもう。

子どもたちは先生の動作を見ながら、先生のあとについていく。

先生も子どもたちもとても楽しそうに、にこにこしている。

「ああ、おもしろい」と、だれかがいう。

第一のグループの子どもたちが終わる。

つづいて、同じようにして、第二、第三のグループの子どもたちが、一回ずつ練習する。

先生「みんな、じょうずですよ。あひるさんは、ひとつ、ひとつ、あるくのよ。足をもつてあるける？」

「お馬さんは、こういうの。手を前に出して、バカ、バカ、バカ。お馬さんになるのじゃなくて、のってる人なのよ。大きいから、ちゃんとしましょうね」

「リスさんは木の実を食べるのだから、チョロ、チョロ、チョロね」といって、先生は部分的に三つの動物をとりあげて、動

作をする。

遊戯を終わって帰り仕度をする。

先生「レコードをかけてあげるから、おかえりのしたくをしていられ、つしやい」といって、先生は「動物の行進曲」のレコードをかける。

子どもたちは、レコードに合わせて、めいめい、帽子をとりにつてくる。

先生「今日は、水曜日だったわね。手ぬぐいを持っていって下さいよ。だれがいちばんおぎょうぎがいいかしら。いわれなくても、わかるわね。今日はお遊戯、みんないっしょうけんめいやったわね。おじょうずだったわね。もっと、もっと、上手になりましょうね。それでは、背中をまっすぐにして、さようなら」

九月十八日 金曜日 くもり

万国旗をかく

新しく入った保育ブロックで遊ぶ

音楽行進

帰るあつまりのときに運動会の際にする遊戯のうたをうたう

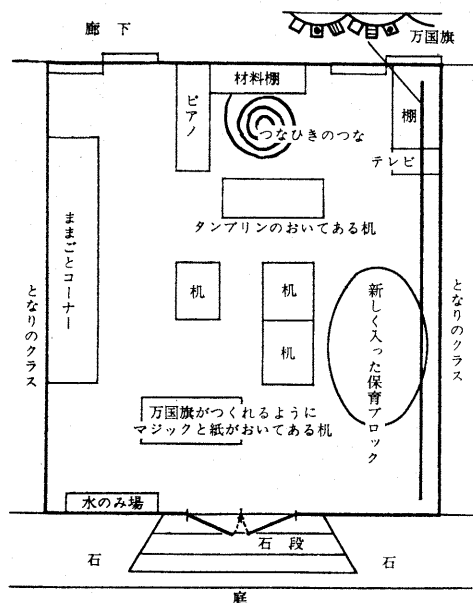
保育室の壁にそって、ひもに通した万国旗がはりめぐらしてある。万国旗をかくことは昨日から行なわれている。机の上に旗にする紙とマジックがおいである。

保育室のもうひとつのコーナーでは新しい保育ブロックで、男児が遊んでいる。めずらしさにとりつかれて、大きわきをしている。また別のコーナーには、机の上にタンブリンがたくさんおいてある。

子どもたちがあつまってきたて、タンブリンをたたきはじめる。ピアノの近くにつなひきのつながまいておいてある。コーナー別に時間をおって記録を見ることがする。

●万国旗をかく

ちょうど一年前の四歳児の時に万国旗をつくった際は、子どもたちの中には国旗に関係なく、思い思いの絵をかいている子がいたが、



今年はいずれもが国旗をかいている。

「ぼく、スイス、かこう」「わたし、アメリカ、かくわ」などといいながら、いろいろな国をさがし出しては、二枚、三枚とかいていく子どももいる。ある子どもは壁にめぐらしてある万国旗を見て、またある子どもは世界中の国旗がかいてある本を手もとにおいで、かいている。

先日米、国旗のかいてある本が保育室においてある。

九時十五分

男児二名、女児六名が机の上で万国旗をかいている。

H「せんせい、アメリカをかくから（アメリカの国旗の意）本をみせてちょうだい」といって先生から万国旗のかいてある本をうけとる。

Oは一枚かき終わる。

O「もつと旗をかいてもいい？」と先生にたずねる。

先生「ていねいにかけば何枚かいてもいいわよ」という。

Oは二枚目をかきはじめる。

旗をかいている子どもたちを見ているKに、

先生「⑩ちゃんたち、旗をかいたの？」とたずねる。

先生のことばを聞いてKが、

K「ぼくもかこう」といって、旗をかいている子どもたちのところにくる。

先生は子どもたちのそばにいて、かきあがった万国旗をひもにつけてつないでいる。

Cが先生と話しながら手伝っている。

十時

旗づくりのコーナーにはだれもいない。

十時十分

先生は庭に出る。

まだ旗をかいていない人をさそってくる。

⑫や⑮たちが旗をかきはじめる。先生と話しながら旗をかいている。

「スイス、スイス」といって本をめくり、スイスの国旗をさがし出す。

先生は旗をひもにつけている。

先生はひもにつないだ旗を子どもたちに見せながら、

先生「ほら、きれいでしょ? どういうふうにかけることにする?」という。

「こういうふうには、ばってんにするといい」と子どもたちが手

まねでしながら提案する。

先生は子どもたちの提案をとりあげて、

先生「みんなで考えたのにしましょうね」といって保育室の角から角へと対角線に万国旗をかざる。

⑯が先生の手伝いをする。

十時四十五分

旗をかいている子どもは四人になる。

J「Mちゃんが、おいす、おいすって、いってたら、せんせい、え、スイス? ってきたんだよ」Jは、さもおもしろいことをみつけたように得意になって、保育室中の子どもにふれて歩く。

●新しい保育ブロックで遊ぶ

新しい保育ブロックが保育室においてある。色は赤・白・青と三色で形は筒状のもの、筒状で蛇腹のようになっていて、くにやくにやるもの、球状のもの、円型のもの、半円のもの、三角形のものなどいろいろである。

保育ブロックは色も形もいろいろなものがあつて、何かつくれそうだけれども、どうしたらよいかまだわからないし、できるだけくさんの保育ブロックを自分のものになりたいなどで、子どもたちは大さわぎしている。保育ブロックがおりてあるところはごたごたしている。

九時十五分

男児が十名くらいあつまつて、がらがらと保育ブロックをまぜこぜにしてみたり、筒状の保育ブロックを目にあてて、のぞいてみたり、口にくわえてみたりして、がたがたわいわい、大さわぎをしている。

先生は保育ブロックのコーナーにきて、ごたごたしているのをみながら、

先生「何か、いいものができるでしょう」という。

保育ブロックをひとつだけ持って、

「ババーン」「手をあげろ、手をあげろ」といって、撃ち合いをはじめる子どもたちもいる。

「これだけじゃ、なにもできないよな」といってBは保育ブロックをふたつだけ持っている。

DとTはふたりがそれぞれ持っていた保育ブロックをいっしょにつなぐ。

「いっしょに何かつくろう」というが、他には保育ブロックはもうあまっていない。

「いっしょにつくろう」と保育ブロックをたくさん持っているOのところに行く。

Kもくる。

四人で持っている保育ブロックをいっしょにして長くつなぐ。

K「おい、長いぞ」

「ほりあい先生に見せてこよう」

「せんせい、でんきそうじきです」

四人は長く長くつないだものを先生のところに持っていく。

「でんきそうじき、パ、パ、パ、パ」

先生は子どもたちのつくった掃除機をみわたしながら、ふしぎそうに、

先生「どこで掃除をするの？」とたずねる。

子どもたち「ビービー、ビー」「でんきがながれているの」とい

う。

先生「ビー、ビー、ビー」と先生も長くつないだ保育ブロックのはしからはしまでさわってみる。

「せんせい、あついから」

「せんせいは、もえない手ぶくろ、してるんだよ」

「それでも、少し、あついんだよ」と子どもたちは興奮して、わいわいっている。

他の子どもたちは相変らず、ひとつか、ふたつの保育ブロックを手にとって、がたがたさわいている。

保育ブロックにさわることをすらできなくて、さわぎを眺めている子どももいる。

先生は子どもたちの様子を見て、

「みんなでひとつつくるといいわね。ひとりでひとつずつつくるよりも、よく相談してつくるといいわね」という。

先生のことばに力を得て、今まで他の子どもたちがつくっているのを見ていたRが、

「ねえ、入れて」という。

Mは筒状の保育ブロックをひとつ持って、

「ビー、ビー、ハーモニカです」といって、保育ブロックをハーモニカにみたてて、楽しそうにふくまねをしている。

先生はMを見て、

「ああ、そういうのもできるのね」という。

先生は旗をつなぎながら、保育ブロックで遊んでいる子どもたちのようすを見ている。

保育ブロックのところは相変らずごたごたしている。

先生「ひとりですつとつくるより、みんなで作るといいわね」とまたいう。

M「これつなげようか」とMがとなりの子どもに話しかける。

M「みんなですると、大きくて、いいのができるんだぞ」

九時四十五分

保育ブロックで遊んでいるあたりが、少しおちついた雰囲気になる。

掃除機をつくった子どもたちが、こんどは八人でいっしょに何かつくっている。

少しはなれたところで五人が一人になっているが、ひとりずつ、何かをつくっている。

また少しはなれたところで、AとHが、それぞれひとりで何かつくっている。

掃除機をつくった子どもたちがEの指揮のもとに大型飛行機をつくりはじめる。

E「おい、ひこうきをつくろう」という。

他の子どもたちは、みんなで、「わっ」と歓声をあげて掃除機をくずす。

E「ひこうきをつくるんだ」といって、Eはみんなを指揮する。

◎音楽行進

レコードの曲に合わせて、タンブリンをたたきながら行進する。

九時四十五分

タンブリンのまわりに子どもたちが集まって、タンブリンをたたいている。

先生は旗をつないでいる。

先生はタンブリンをたたいている子どもたちを見ながら、

「みんな上手ですね。十時になったら、レコードがなるから、

レコードの曲に合わせてみましょうね」という。

子どもたちは思い思いにタンブリンをたたいている。

旗をかいている子どもたちが、「うるさい」という。

先生はタンブリンをたたいている子どもたちを見ながら、

先生「うるさくないように、順番にたたくとかしたら」という。

九時四十五分

スピーカーから音楽がながれている。

先生は旗をつなぐのをやめて、タンブリンのところにきて、曲に合わせてタンブリンをたたきながら歩く。

子どもたちは先生のあとについて歩く。

先生は曲を聞きながら、曲に合わせてタンブリンをたたく。そして、子どもたちにたたき方を指導する。

先生「ひとつうつの、今度はおやすみよ、今度ははやいの」といいながら、曲に合わせてたたく。

旗をかいている子どもたちは、旗をかきつづけている。
タンプリンのところの人数がだんだん多くなる。保育室ではせまくなってくる。

先生「じゃ、今度は石のところ（保育室から庭につづくところ）で
しましうね。石のところをまわるといいわ。そこでもレコー
ドの音が聞こえるから」といって、先生は石のところに出る。
子どもたちはタンプリンを持って庭に出る。庭でレコードに合わ
せて、タンプリンをたたきながら行進する。

●クラス全体のようす 十時四十五分

先生は旗をつないでいる。

先生のまわりに子どもが三人いて、手伝っている。

旗をかいている人、四名

保育ブロックで何かつくっている。男児一名、女児三名

女児が一人になって、庭にいく。すぐ保育室にもどり、遊戯室に
いく。

男児は庭で、リレー、ブランコ、すべり台などで遊んでいる。
Oがひとりでなわとびをしている。

保育ブロック

電話をつくる。

⑧と⑨が保育ブロックで何かつくっている。

先生は⑧たちがつくっているものを見る。

先生「あれ、ここ、おもしろいわね」という。

⑧と⑨は保育ブロックを組み合わせて電話をつくっている。
しばらくして、

⑧「紙でつくろう」といって、紙で電話をつくりはじめる。

⑧「さいしょ、どうやるんだったかな」といって、材料の
ある棚からセロテープや画用紙を運んでくる。

⑧と⑨がそれぞれ画用紙をくるくると筒状にまいて、セロテープ
でとめる。

先生はバラフィン紙を出してきて、⑧たちに与える。

先生「紙を少し大きめに切って（筒の円周に十分かぶさるほどの大
きさが必要だということ）、はる前に糸をおしておくの。そ
してすぎまがないように、よくはらないとすーすーして声が聞
こえないわよ」という。

Dもなにかつくっている。

先生「Dちゃん、はやくしないと、せんせい、おかえりにしたいの。

あしたでもいいわよ」という。

（先生には帰るときに運動会のうたの練習をしようという計画）
があるので、時間を気にしているし、あせりがある。

十一時五分

先生は、⑧、⑨、Dのところは、そのままつけられるようにし
て、他のところから片づけはじめる。

Tが⑧と⑨のところにきて、つくっている電話をじっと見てい

る。

片づけが終わるころ、㊦たちも電話をつくりあげる。

十一時十五分

先生「砂場はだいじょうぶかしら？」

といいながら保育室を片づけている。保育室を片づけ終わり、砂場を見に行く。

砂場はきれいに片づいている。

先生「ごくろうさま、きれいになったわね」と砂場にいる子どもたちにいう。

先生「おてあらいにいつてきてちょうだいね」と子どもたちにいう。

ほとんどの子どもがいすにすわる。

子どもたちは黒板にかいてある「自動車の歌」をよんでいる。

先生は子どもたちの人数をかぞえて、そろっているかどうかをたしかめる。

先生「じゃ、いいお声を出して、『きゅうぴいさん』を歌って下さいね」

子どもたちは先生のピアノに合わせてうたう。

「『パッとおてて』のところは、げんきがよくっていいわね。

IちゃんもOちゃんも、みててちょうだいね」という。

十一時二十五分

輪になって「動物の行進曲」の遊戯をする。

先生「なるべくまるが大きくなるようにね」

先生はブレーヤーのそばにいて、次の動物になるときの合図をしながら見ている。

「スキップよ」

「バカバカバカ」

「くまさんよ」

「リスさんね」という。

遊戯は一回だけで終わる。

遊戯が終わって、

先生「よくおぼえたわね」といつて子どもたちをほめる。

「まだちょうちょうさんのところが、ちょっとおかしいわね。それとまるが小さくならないようにしましょうね」という。

「何でも好きなものになって、お帽子をとりについていらつしやい」という。

子どもたちは思い思いのかっこうをして、帽子をとりについて、帰り仕度をする。

十一時三十五分

子どもたちがみんないすにすわる。

先生「他の方ができていたら、自分もいそいでしましょうね」という。